

北極グマ(白クマ)を尊重し適切な行動を取っていただくことにより、今後も北極グマ観察の機会を継続することができます。ご協力ありがとうございます。

- 北極グマの生息地を訪れる前に、安全のための注意を説明しているウェブサイト (<http://arctic.fws.gov/visitors.htm>) をご覧下さい。
- グマの観察は昼間の明るい時間帯だけにしましょう。車中でなくクルーズで、車内かボート内から観察してください。
- グマの行動を妨げることのないよう、十分な距離を置き、ゆっくりして近づくべきないようにしましょう。
- 音、光、動きを最低限におさえて、ゆっくりとグマに近づいてください。
- グマが、接近行為に気がついた場合は、ただちに動きを止めましょう。そしてグマが元の行動に戻るまで静かに待ちましょう。
- グマを呼んだり、グマについて回ったり、追いかけてはいけません。
- グマにえさをやるうとするなど、グマを故意に自分に向かせるような行為はしないでください。
- 母グマと子グマの間には絶対に入ってはけません。
- ボートから観察中に、泳いでいるグマの進路を妨げないようにしてください。
- グマを車やボート、人体に接触させないようにしてください。

## カクトビクでの北極グマ(白クマ)観察注意点

北極グマ(白クマ)の観察、及び写真撮影は法律で認められています。しかし、グマを刺激したり、おどかしたりすることは違法であり、たいへん危険な行為です。



## カクトビク地域へお越しの皆様へのお願い

- この地域へお越しの際は地域住民への配慮を忘れず北極グマ(白クマ)の観察や捕鯨の見学をされますようお願いいたします。
- 写真撮影は離れた場所からお願いします。安全の確保のための囲いや目印がある場合はそれらに従って観察してください。
- この地域の伝統的な食物収集活動を続けるために、アメリカ合衆国法はカクトビク地域住民のホッキョククジラ捕鯨を許可しています。この伝統を尊重し、クジラの解体作業中は作業の妨げにならないように気をつけて観察してください。
- 北極グマの観察は研修や実習を受けたガイドを伴ってください。それによって、法律にしたがった安全な観察をすることができます。
- 海洋生物を素材とした工芸品の購入は許されていますが海洋生物保護法により、海洋生物の工芸品を販売することができるのはアラスカ先住民だけです。先住民でない者が先住民から購入した工芸品以外の海洋生物製品を保持、運搬、販売することは違法です。また、ここで先住民から正規に購入した工芸品であっても、それらを他国に持ち帰ることが合法であるかどうかは、入国先によって異なりますので事前にご確認ください。

この地域を尊重し適切な行動を取っていただくことにより、今後も北極グマの観察や捕鯨の見学の機会を継続することができます。ご協力ありがとうございます。

北極グマはアラスカ先住民の伝統文化にとっても重要な位置を占めています。北極グマの強靭さ、獲物に忍び寄る狩りの能力はアラスカ先住民が認め賞賛してきました。

カクトピックでは、住民や訪問者が北極グマを観察する珍しい体験ができます。ここで見られるクマは、ビューフォート海南部に生息するおよそ1500頭のクマの一部です。これらのクマはアラスカとカナダ北部の800マイル(約1287キロ)にわたる海岸地区を利用して生活しています。北極グマは水上を好みますが、氷が減る夏と秋には海岸で休息し、食べ物を探し、海に再び氷が張るのを待ちます。時にはここで巣穴を作り出産するクマもいます。

バーターアイランドでは、陸にいる北極グマがヒグマに遭遇することがあります。北極グマはヒグマよりもかなり大きく、大人のオスは鼻先から尾まで8フィートから9フィート(2.4から2.7メートル)ほどあり、体重は1320ポンド(約600キロ)さらに大きいものでは1760ポンド(約800キロ)にもなります。大人のメスは、オスの半分ほどの大きさが普通です。その大きさにもかかわらず、バーターアイランドにある捕鯨後のクジラの残骸が積み上げられている餌場では、よく北極グマがヒグマに場所を譲る光景が見られます。

北極グマは北極の環境に適応して暮らしてきました。北極グマの白さはカモフラージュになります。外側には防水効果のある粗い毛、内側には保温のための密集した毛、そして熱を吸収する黒い皮膚があります。足の裏には小さな吸盤のようなものがあり、滑りやすい氷の上の滑り止めになっています。歯は肉食草食両用ではなく、肉食のみに最適な構造をしています。食べ物が豊富な時には大量の脂肪を体に蓄えて、食べ物が不足しても、蓄えた脂

肪を使うことができます。北極グマは主にワモンアザラシを食べますが、他にもアゴヒゲアザラシ、セイウチ、シロイルカなども食べ、海岸にうちあげられた生き物の死骸を探してまわったりもします。

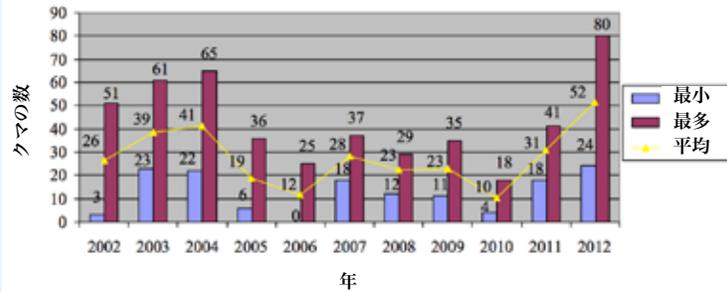
海に氷が張らない時期に海岸線近くに多く集まる時や繁殖期、子育て中を除き、北極グマはたいてい単独で生活します。妊娠中の母グマは10月末か11月ごろから3月末か4月ごろまで、冬の巣穴で過ごします。他のクマは巣穴に住むことはほとんどなく1年中活動します。母グマの巣穴はカクトピック周辺の川岸や海岸の崖に沿った、雪が多く積もった陸地によくあります。また、圧力で盛り上がった氷海上に掘られたものもあります。

妊娠した母グマは真冬になると、かまわい、ほとんど毛の生えていない、とても小さな子グマを巣穴の中で1~3匹生みます。雪に守られた巣穴は一定の暖かさを保ってくれ、母グマは3月から4月まで巣穴の中で子グマを母乳で育てて過ごします。巣穴から出た後は母グマと子グマは氷海上に移り子グマは狩りの仕方を習い始めます。子グマはおよそ2年半ほどを母グマと生活します。

巣穴に住む時期は子グマの成長にたいへん重要です。冬に巣穴をおびやかすことは母子を巣穴から追い出し、子グマの死につながります。ですから、冬に北極グマの巣穴に近づくことは避けるべきです。

近年の気候の温暖化によって海水がとけてきたために北極グマは水と陸の間を長時間泳いで渡らなければならなくなりました。長時間泳いだ後で、クマが何日も動かずに陸上で休むことはめずらしくありません。そのようなクマを見かけた場合、近づかないで静かに休ませておくようにしてください。

9月7日~26日までの1日の北極グマの数の移り変わり  
(2002年~2012年)



- 2002年から2012年の間のクマの数はまちまちで一定の傾向はみられません。
- オス、メスともに幅広い年齢層のクマが、バーターアイランドを訪れます。ここは栄養不足のクマにとっては特に重要な地域と言えます。
- 北極グマはたいていバーターアイランドに8月頃現れ10月に海が凍るまでとどまります。バーターアイランドでは文化と伝統に根ざした先住民生存捕鯨が行われています。そのクジラの残骸に集まるクマの数を推計するため、2002年にクマの数を調べる日が設定されました。
- クマの数を継続して調査することは重要であり、現在も続けられています。

- アラスカの北海岸からカナダの西部にかけて、北極グマが秋に一番多く集まるのは、バーターアイランド周辺です。
- 海岸部で見られるクマの数と、陸から海水までの距離は密接に関係しているようです。今後、海水が減り、陸との距離がさらに伸びれば、陸地を使う北極グマはさらに増えると思われます。
- 北極グマがバーターアイランドに集まる大きな理由の一つは、捕鯨の後のクジラの死骸があることのようにです。
- もう一つの理由は、おそらく、クマの主な食べ物であるワモンアザラシがバーターアイランド付近には他のどの海岸地域よりも多く生息しているからでもあるでしょう。秋になるとここでは真っ先に海が凍り、ワモンアザラシを捕るために都合のよい狩り場ができるのです。